

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500145		
法人名	株式会社MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流武番館		
所在地	千葉県流山市古間木313-6		
自己評価作成日	令和5年12月4日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所理念にあるように、一人ひとりに合わせた高いレベルのケアを心掛けている。主要のスタッフが入居者様の平常の状態の把握を徹底し、それをベースに細心な体調の変化に気付けるようにしている。スタッフ一人ひとりが薬や医療の知識もつけるようにしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>令和5年は夏の猛暑や冬の激しい寒暖差に加え、5類感染症に移行したとはいえ新型コロナとインフルエンザの同時流行など、高齢化の進む入居者と、ケアする職員にとって大変な一年であった。抗原検査を前提とした短時間の家族等の面会も現在ではできない状況である。その中でも、年間を通じて定例行事や運営推進会議、日々の散歩などを職員の懸命な努力で理念を実践されているところはまさにクララ清流の面目躍如である。「クララ通信」の行事写真の入居者の表情からも、日頃の健やかな生活ぶりが伝わってくる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	文書評価(令和6年2月25日)		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人生の先輩として尊敬し、一人ひとりに合わせたケアを心掛けている。	入居者の高齢化も進んでいるが、一人ひとりに寄り添い、健康に配慮した食事の改善など、理念に沿ったサービス提供に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降、年2回の消防訓練のご協力以外は交流少。	日常の散歩の際に言葉を交わす程度の交流は続けている。地域の行事などは再開されていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの問い合わせの電話対応や見守りなどをすよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見はもちろん、日ごろから、電話・メール等でもすべての意見をサービス向上に活かすよう努めている。	コロナ禍にあっても年6回の運営推進会議を開催している。地域包括支援センター、市の介護支援課、民生委員、家族代表の参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	流山市役所介護支援課と日頃より情報交換等し連携を密にしている。	市の介護支援課からは、毎回ではないが運営推進会議に参加があり、介護の実際を見せながらホームの状況を伝える機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なミーティングや日常の決まり事に組み込み、拘束を意識するようにしている。	管理者や主要スタッフは外部研修に参加し、ホーム内の身体拘束適正化委員会などで職員に展開すると同時に、意見交換を行っている。介護の質の向上を常に意識した取り組みに努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が率先して行政等の研修に参加し、3か月に一度のスタッフミーティングにて全スタッフと意見交換し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は都度、研修や独自勉強に励み、機会毎に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約において、内容の食い違いが無いよう厳重に相互確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会や定期的に電話などをし、様々な報告や要望の抽出を心掛け、問題があればすぐ改善するようにしている。	家族アンケートでは、やはり面会の希望が多く出されている。コロナは5類に移行し、面会制限を緩めようとした矢先にインフルエンザの流行が始まり、現在は面会できない状態になっている。入居者の健康を第一に考え、ホーム内でのクラスターの発生防止に取り組んでいる。	面会再開の判断は非常に難しいと思われるがホームの実情や行政の方針など広い視野でとらえて、前向きに検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の送り事項の中で、必ず問題点などの洗い出しをするよう心掛けている。	常に「理念の実践」を迫る姿勢が定着しており、職員からも運営に関する前向きな意見が多く出されている。職員の定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々なシチュエーションにおいてモチベーションアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1日1日の仕事を無駄にしないよう、スキルアップを常に念頭に声掛けを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は感染症の問題もあるので自粛中。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご本人様の状態やお話、ご家族の要望等、必ず聞くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご本人様の状態やお話、ご家族の要望等、必ず聞くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、状態把握に努めた後、より良い支援の提案をさせてもらっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一同そのように努めている。入居前に行っていた家事(洗濯干し、食器拭き、ワイパー掛け)を行っていただき、役割を持って生活して頂いています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話など家族と入居者様の繋がりをできる限り密にするようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙のやりとりの補助などを行っている。	ホームだより「クララ通信」には担当職員による利用者の様子が写真と共に伝えられている。新型コロナウイルス対策で面会が制限される中、馴染みの人との関係をどのように継続させるか等について職員間で話し合い、お手紙のやり取りの補助などで支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりぼっちにさせないよう、席やレク・お散歩時など配慮している。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、いつでも力になる旨は伝えるようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、入居者様の要望や行いたい事、動きたい衝動など大切にしている。	利用者の入所(利用年数)期間が長くなり、認知症状も進んでおり、意向の把握が難しくなっている。職員は、本人本位の暮らしに寄り添い、要望や行いたいこと、動きたい衝動などを見守り、思いを理解しようと取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活を大切にしている。家具や食器はそのまま使うようにしている。入居時や面会時にご家族とお話をしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日1日の変化を、スタッフ全員で感じるよう指導している。バイタルや食事量の把握も行っている。ご本人様が希望した時には居室で臥床して頂く等の個別支援を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を聞き、医療職、介護職と連携して、ご本人の望む生活ができるようにプランを作成しています。	ケース記録を基に利用者の心身状況の把握を行い、課題や問題点のカンファレンスを行っている。モニタリングは短期目標に合わせ実施し、本人や家族の意向や要望を反映し医療職、介護職と連携し現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフがモニタリングをこまめに記録している。毎日の申し送りを早・日・遅・夜と回すと共に、ケア記録をしっかり記入するよう声かけしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題が起きたら相互に相談し、早めに柔軟な対応をするように心がけている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療や訪問看護を利用し、健康に過ごしていただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医を中心に、内科・歯科・総合病院と訪問診療を含めて、充実した医療を心掛けている。	主治医、訪問看護師の往診、24時間オンコールの体制ができています。定期訪問診療を受け、その都度指示を仰ぎ、適切な医療が受けられるように支援している。朝夕のバイタルチェックを個人表、医療ファイルに記録し利用者の健康管理を徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、月一回の定期訪問と24時間365日の医療連携体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から連携病院の事務や薬局と情報のやりとりを密にしている。また、総合病院の医療連携室との関係を築くようにしている。入退院時も情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療のドクターから看取りの話が出る前から、ご家族様との話し合いを重ね、それに応じて訪問診療、訪問看護、病院との連携を計っている。	重度化と終末期に対する指針が作成されており、入居時説明し同意を得ている。リビングウィルの提出で要望を共有している。主治医、訪問看護師と連携をとり利用者にとって最善の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様は90代の方が7割。日頃より、転倒防止フォローや急変時対応の指導が行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、防災会社、地域の人、スタッフで共に、年2回の避難訓練を行っている。	消防署指導で昼夜想定避難訓練を年2回利用者も参加して実施している。身支度や避難経路の確認、所定の場所に何分まで全員集合できるか把握している。防災会社、町会の消防団の応援も得ている。	

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは人生の先輩として尊敬し、何気にも言葉などにも配慮した声掛けや対応を行うよう指導され心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な声掛けを心掛けている。尊厳の保持を介護の基本とし、本人の意思を大事に本人に寄り添った支援に努めている。一人ひとりのお誕生日をお祝いしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレへの誘導やお茶の時間に飲みたい物など、ご本人様の意見を伺うよう心掛けている。思いや希望を表現することが難しい方は表情から判断して支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	せかせかと業務をこなすのではなく入居者様の生活に寄り添ってケアするよう心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、衣服の選択や整髪、ひげそり等スタッフと一緒に必ず行うよう指導実践している。清潔に生活していただけるようにしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、準備・片づけのお手伝いは日課になっている。一人ひとりの出来ることを活かして実践して頂いている。メニューリクエストも聞いている。	旬の食材を使った職員手作りの家庭的な食事が提供されている。できる方は調理の下準備や片づけなど一緒に行い日課にするなど、張り合いが感じられるよう支援している。嚥下体操、口腔ケアでいつまでも自分の口で食べて、食事が楽しめるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を毎日記録し、脱水予防に努め、栄養バランスも考えながらメニューを決めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアは日課になっている。お出来になる方は磨き残しのないよう声かけを、介助の方には出血しないよう丁寧に隔々で行うよう心掛けている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し、一人ひとりのパターンを把握し、24時間可能な限りトイレにて排泄出来るよう心掛けている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し利用者の自尊心・羞恥心に配慮した支援に努めている。先回りした支援ではなく利用者の意志と自立を考慮し、24時間可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて何日排便が無いかが把握し、出来るだけ薬に頼らず飲食物や運動での働きかけをしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と時間帯は決まっているが、その中でも出来る限り好きなタイミングで入浴できるよう声掛けしている。	入浴の時間は制限しないようにしており、体調に合わせて、希望に沿って支援している。本人の習慣・希望や体調に合わせて、入浴できるよう声掛けしている。入浴時間が職員とのコミュニケーションの場にもなっている。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態を申し送りし、不眠気味の方には日中のんびり過ごして頂くなどを心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者だけでなく、スタッフ一人ひとりが入居者様が服用している薬を把握するようにしている。増減があった場合にも周知するようにしている。ダブルチェックを行い服薬間違いの無いように支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔のことを思い出せるレク、春夏秋冬を感じる工作、脳を刺激する脳トレ、時間をただ何もせず過ごすことがないよう考慮している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍後、外食は行けていないが、毎日お散歩に力を入れている。一人ひとりの体力に合わせたコースを設定し楽しんで頂いている。	コロナ禍以降、外食などに行けていないが、毎日の散歩に力を入れている。一人ひとりの体力に合わせたコースを用意し楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては「事務所でお預かり」とお声かけさせてもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友人等との相互やりとりを率先してお声がけさせてもらっている。電話やお手紙の利用はかなり力を入れている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に、また安全に過ごし、転倒やケガが無いよう、毎日の掃除や点検は欠かさず行っている。	利用者は一日の大半をリビングで過ごしている。四季に合わせ模様替えを行い季節感を表現している。趣味を生かした折り紙や制作物を取り入れ、ものづくりの喜びを感じている。室内は清掃消毒に努め、空気清浄加湿器を導入するなど感染症対策を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲よし同士での席の作り方を、日中や食事、全ての時間において配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居室はご本人様が昔から使っている物、布団やタンス、衣服など、ご自宅と同じような環境作りを心掛けている。	各居室には本人の使い慣れた家具などを配し自宅の雰囲気に近づけるよう工夫している。居室入口の動物の表札は、自分の部屋と分かりやすく、部屋の誤認はない。テレビや好きな本、写真など持ち込み居心地よい部屋になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行可能な方にはフローアと居室を安全に自由に行き来できるように、車椅子の移動もスムーズにできるように配慮している。自室がわかりやすいように動物の表札を設置しわかりやすくしている。			